

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



澄んだ音色で秋を知らせる
さくら組のスズムシ

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第5号

発行日：令和7年9月9日（火）

発行者：杉山 孝史

子どもたち元気に登園

長かった夏休みが終わり、8月29日（金）から2学期が始まりました。振り返ってみると去年の夏もかなりの暑さでしたが、今年はその比ではなく記録づくしの夏となりました。地球温暖化ならぬ地球沸騰化というような言葉が聞かれたほどでした。



大きな荷物を持って笑顔で登園する子どもたち

朝、久しぶりに登園してきた子どもたちは、夏休み前に比べて見違えるほど大きくなっていました。中には、夏の太陽をたっぷり浴びて日焼けし、たくましくなったように感じる子もいました。「公園へ行って花火を見たんだ。すごく大きかった」「レゴランドに行ったよ。楽しかった」「家族で温泉に行ったよ」など、夏休みの思い出が子どもたちからたくさん聞かれました。休みの間、子どもたちは事故や事件に巻き込まれることなく、また熱中症などの病気にかかることもなく元気に過ごせたようです。ひとえに保護者やご家族、地域の皆さまのご配慮のおかげです。ありがとうございました。

2学期も、「えがお・げんき・あいさつ」いっぱいすてきさんが集う幼稚園を目指して、職員一同精一杯教育活動に取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力をお願いします。

全員がゆうぎ室に集まって

初めて年少の子どもたちも加わり、3学年合同で2学期の始業式を行いました。長い休みを経て再び全員がそろった喜びを皆で分かち合い、2学期のめあてなどを子どもたちと一緒に確認しました。



長く伸びたカボチャのつるに驚く子どもたち

一方、1学期の終業式で紹介した我が家の畑で繰り広げられた「カボチャのつるの大レース」の結果も知らせました。7月、他の選手に大きく後れをとっていた無名の選手＝ロロン

ちゃんでしたが、8月にぐんぐん追いついて見事1番でゴールしたのでした。その後、カボチャのつるを箱から取り出し、ゆうぎ室の端から端まで伸ばして見せると、その長さに子どもたちは驚いていました。2学期も「えがお・げんき・あいさつ」を大切にすてきさんを目指そうというメッセージを送って話をしめくりました。



阿波踊りを披露する
円中連の皆さん

始業式が終わった後、町の阿波踊り・円中連の方々に阿波踊りを見せていただきました。鐘や太鼓に合わせてリズムカルに踊る様子に子どもたちは魅了されました。

9月27日（土）はPTA主催の「にこにこフェスティバル」です。この日に子どもたちは、阿波踊りとあじさいちゃんマーチを踊ります。可愛らしく踊る子どもたちの姿が目に見えます。円中連の皆さまありがとうございました。

やったあ、アイスクリームだ！

9月2日（火）から2学期の給食が始まりました。この日の注目メニューは、子どもたちの大好きなアイスクリームでした。



冷たくて甘いアイスクリームに子どもたちは大満足

「今日の給食はアイスだよ」「でも、デザートは最後に食べるからアイスが溶けちゃうよ」朝からアイスクリームの話題で大いに盛り上がっていました。2学期最初の給食にアイスクリーム。暑さの残るお昼時、ひんやりとした甘さが口の中に広がると、「おいしい！」という笑顔がたくさんこぼれていました。

～ 新しい回転釜を設置 ～

給食調理場には、煮物や揚げ物づくりに活躍する回転釜が3つあります。先日、老朽化のためそのうちの1つを新しいものに交換しました。これにより作業の負担が軽くなり、安全面も向上したことで、より美味しい給食づくりに役立っています。



開成幼稚園の魅力をたっぴいと

夏季休業中の8月6日（水）、開成駅前にある子育て支援センターで行われた「あじさいっこ」相談タイムに、本園の職員5名が担当として参加してきました。この日も、朝から真夏の強い日差しが照り付けていましたが、冷房の効いたフロアには10家族ほどが訪れ、ゆったりとした時間を過ごしていました。相談タイムには、その内の6家族が参加されました。

はじめにスライドを使って、開成幼稚園の教育目標、園児や職員の状況、ふだんの遊びや行事などを説明しました。参加された皆さんは、最後まで熱心に話を聞いてくださいました。その後は、



園の職員がお一人ずつの質問にお答えしました。「保護者が参加する行事はどれくらいあるのか」「途中入園も可能なのか」「保育時間や預かり保育について詳しく知りたい」といった質問や相談が寄せられ、幼稚園への関心の高さが感じられました。

今後も、子育て世代や地域の皆さまの声に耳を傾けながら、質の高い保育を届けることを大切に信頼される幼稚園を目指してまいります。このような機会を与えてくださった支援センター、また参加された皆様ありがとうございました。

交通事故から命を守ろう

令和7年9月21日（日）～9月30日（火）までの10日間、全国一斉に秋の全国交通安全運動が実施されます。運動の目的は、交通安全の大切さを普及・浸透させ、交通ルールを守り正しいマナーを習慣づけることで、交通事故の防止を目指すことです。主な重点項目は、①歩行者の安全確保 ②ながらスマホや飲酒運転の根絶 ③自転車・特定小型原動機付自転車の交通ルール遵守とヘルメット着用促進の3点です。さらに、開成町では10月1日（水）を交通事故防止の重点日に定め、午前7時20分～8時00分までの間で街頭指導を一斉に行います。ご協力いただける方はご参加ください。



ふだん幼稚園では、園外保育や長期休業の前などに、交通安全指導を行っています。例えば、3本指の約束（人差し指・中指・薬指を順に立てながら「わたしは、必ず、止まります」と言ってから道を渡る）、道路の右側を歩く、信号は青で渡るなどです。たった一つの大変な命を守るためには、日頃から交通安全に対する意識を親子で持つことが大切です。だいぶ涼しくなってきました。この機会に、親子で自宅周辺を散歩しながら、事故につながるような危険な場所を一緒に確認してみたいはいかがでしょうか。

ひだまり

折り鶴

▼鶴を折った経験をお持ちでしょうか。

小学生の頃、大好きだった祖母に鶴の折り方を習い、得意げに友達に教えた記憶がうつすら残っています。先日、南足柄市の広報誌に小学生や市民が折った6万羽の千羽鶴が平和式典に合わせて広島と長崎に贈られたという記事が載っていました。▼そういえば、以前勤務した南足柄市内の小学校では、児童会が中心となり、子どもたちや職員が折った鶴を原爆が投下された広島や長崎に届けていました。平和への願いを込めた活動として、学校全体で取り組んだことが印象に残っています。当時のことを思い出しながら、10年ぶりに鶴を折ってみました。しかし、折り方をすっかり忘れていて、途中で手が止まってしまいました。結局YouTubeに頼って、ようやく完成させることができました。真っ白な鶴のなんと可憐なこと、しばらくの間じっと見入ってしまいました。▼今からおよそ70年前、佐々木禎子さんという女の子が亡くなりました。禎子さんは、2歳の時に広島で被爆し、それから10年後の6年生の時に白血病を発症しました。禎子さんのお見舞いに千羽鶴が贈られたことをきっかけに「生きたい」という願いを込めて、禎子さんは鶴を折り始めました。しかし、8ヶ月間の入院生活の後、家族に見守られて禎子さんは亡くなりました。やがて、この話は広く知られるようになり、折り鶴は平和の象徴として、今でも国内をはじめ世界中から広島と長崎に届けられています。▼この夏は、終戦から80年という節目の年でした。広島『原爆の子の像』の前には、今年も多くの折り鶴が手付けられました。折り鶴に込められた「生きたい」という願いは、時を越えて世界中の人々に語りかけています。私たちもその願いを受け継ぎ、平和の尊さを改めて心に刻んでいきたいと思っています。

